研究課題	コンサルテーションにおけるタブレット端末を活用したフィードバックシート作成の有効性に関する研究
副題	～知的障害特別支援学校におけるセンター的機能の実践～
キーワード	知的障害特別支援学校、コンサルテーション、フィードバックシート
学校/団体 名	国立国立大学法人筑波大学附属大塚特別支援学校
所在地	〒112-0003　東京都文京区春日 1-5-5
ホームページ	https://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/

１．研究の背景

文部科学省（2003）による「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」は従来の特殊教育から特別支援教育へと大きく転換することとなった報告書であり、その一つに特別支援学校が地域に果たす役割として「特別支援教育のセンター的機能」が示されている。筑波大学附属大塚特別支援学校（以下、“本校”とする）においても 2003 年に地域支援の充実とモデル開発を目的に「支援部」を立ち上げるなど、これまで多機関との連携を通した特別支援教育の充実にも取り組んでいる。また、文部科学省（2023）「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告」からも特別支援学校のセンター的機能の充実を通して、インクルーシブ教育システムの一層の推進が求められていると言える。

センター的機能に関する本校の具体的実践の一つに、幼稚園・小学校への巡回相談・コンサルテーション（以下“コンサルテーション”とする）が挙げられ、本校では 2017 年度より学校が所在する行政と包括協定を締結し、特別支援教育に関する外部専門員として取り組みを進めている。またそれ以外の自治体や依頼のあった教育施設への相談対応も実施しており、年間で 30 機関・100 名以上の相談対応に当たってきた。なお、主な巡回相談の流れを表 1 に示す。

表１　研究担当者が行うコンサルテーションの流れ

No.	主な内容
1	管理職等から対象児（複数名）の実態や指導・支援に関する課題等の説明を受ける
2	降園・下校まで、対象児の行動観察を実施する
3	降園・下校後、学級担任・支援員・管理職等と協議会（フィードバック）を実施する

研究担当者は本校の特別支援教育コーディネーターとして、2017 年度より外部機関への巡回相談等のセンター的機能の実践に取り組んできた。ここで直近 4 年間の相談数をまとめる（表 2）。表 2 は総数であり、このうち本研究の手続きで実施する件数は「５．研究の成果」で示す。

表２　研究担当者が実施したコンサルテーションの件数

（延数）	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
機関数	46 機関	43 機関	48 機関	54 機関
ケース数	144 名	167 名	153 名	175 名

従来のコンサルテーションでは対象児の行動観察をもとに、下校後に学級担任等へ口頭でフィードバックを行っていた。その際、学級担任等は研究担当者の説明を聞きながら指導・支援に必要だと思うことを書き取ろうとする姿が見られていた。「日中の学級運営に加え、下校後のフィ

ードバックでは（研究担当者の）話を聞き、必要なメモを取ることが学級担任等に相当な負担になっているのではないだろうか…」ということに課題意識を感じたことがきっかけとなり、タブレット端末とポータブルプリンター（図１）を利用したフィードバックシート（図２）の活用を検討し、運用することとした。なお、タブレット端末等のツールを使用することについて訪問先の管理職に説明し合意を得た上で進めるようにしている。

図１　タブレット端末とポータブルプリンター

※フィードバックシートは対象児 1 名につき１枚を作成する（対象児によって記載内容は異なる）

図２　フィードバックシートの例

２．研究の目的

以上のことから本研究では学級担任等へのアンケート調査を通して、フィードバックシートの有効性等について表３のことを明らかにする。

表３．本研究の目的

No.	目的
1	【有効性】フィードバックシートは学級担任等にとって有効であるかどうか。
2	【有効であると感じる観点】どのような点（下記）に有効性を感じるか。 (1)負担感の軽減　(2)視覚的手立て　(3)振り返り　(4)情報共有

このような点を明らかにすることで、**特別支援学校のセンター的機能の充実**に関する具体的な手立ての一事例を明らかにすることができるとともに、他校の特別支援教育コーディネーターが**コンサルテーションを進める際の配慮等の参考情報**を提供できると考えた。

アンケート調査は web のアンケートフォームを活用した。質問内容を表４に示す。フォームの QR コードを紙資料で共有し、フィードバックに参加した学級担任等に任意での回答を依頼した。回答は無記名とし、個人が一切特定されない形に十分に留意し調査を進めた。

表４．アンケートの質問内容

No.	質問
1	【選択式】今回の回答の対象となる時期を選択してください。 □1 学期　□2 学期　□3 学期

2	【選択式】フィードバックシートは、協議・フィードバックを進める上で有効だと思いますか？ □思う　□やや思う　□どちらとも言えない　□あまり思わない　□思わない
3	【選択式】Q2 で「思う」と回答した方にお伺いします。フィードバックシートは、どの点で有効だと感じますか？（複数選択可） □メモを取る手間が省略でき、負担感の軽減になる □視覚的にも情報を把握でき、分かりやすくなる □後からでも読み返すことができ、振り返りに使える □クラスに関わる複数の大人で情報共有しやすくなる □管理職へ報告しやすい（おおむねシートを提出するくらいで済む） □【その他】次の Q4 にその内容を記入してください（自由記述）
4	【自由記述】Q3 で「その他」を選択した方は、その思いや考えを自由に記入してください。
5	【選択式】今後もコンサルテーションでは、フィードバックシートのような物があると良いと思いますか？ □思う　□どちらでもない　□思わない
6	【自由記述】今回のフィードバックシートやコンサルテーションなど、全体を通してのご意見やご感想などがありましたら記入してください。※無記入でも構いません

なお、アンケート「Q3」については、表５の観点をもとに設定した。

表５　研究目的に迫るためのアンケート調査質問項目の観点

Q3 の質問内容	観点
□メモを取る手間が省略でき、負担感の軽減になる	**負担感の軽減①**
□視覚的にも情報を把握でき、分かりやすくなる	**視覚的手立て**
□後からでも読み返すことができ、振り返りに使える	**振り返り**
□クラスに関わる複数の大人で情報共有しやすくなる	**情報共有**
□管理職へ報告しやすい（おおむねシートを提出するくらいで済む）	**負担感の軽減②**

３．研究の経過

研究の経過を表６にまとめる。

表６　研究の経過

時期	内容	評価等
４月	・web アンケートフォームや依頼文書の作成 ・各園等との日程調整（依頼を受け訪問日を決定）	―
5～7 月	・コンサルテーションの実施	・アンケート調査（1 学期）
８月	・各園等との日程調整（依頼を受け訪問日を決定）	―
9月～12 月	・コンサルテーションの実施	・アンケート調査（2 学期）

12月	各園等との日程調整（依頼を受け訪問日を決定）	―
1月～3月	・コンサルテーションの実施	・アンケート調査（3学期）

４．代表的な実践

本研究は表1で示した流れを共通に、訪問先では表1の流れに沿ってコンサルテーションを実施している。以下に、各項目の詳細を記述する。

（１）管理職等から対象児（複数名）の実態や指導・支援に関する課題等の説明を受ける

おおよそ9時30分頃に訪問し、まずは20分程度、管理職等から今回のコンサルテーションの対象児に関する実態や学級担任等のニーズを確認する。特に、学級担任が感じている指導・支援の課題、具体的に知りたいと感じている支援方法などの情報を整理する。そして管理職等からの説明後、タブレット端末のノートアプリを使用し、フィードバックシートを準備する。

（２）降園・下校まで、対象児の行動観察を実施する

活動中は降園・下校まで、対象児の行動観察を行う。幼稚園であれば、自由遊び、設定活動、係活動、食事や身支度など様々な場面があり、場面ごとに見られる子どもの姿は異なるため、できる限り対象児の様子や子ども同士のやりとり場面などを観るようにしている。このような行動観察と同時並行し、タブレット端末を使ったフィードバックシートの作成を進める。

（３）降園・下校後、学級担任・支援員・管理職等と協議会（フィードバック）を実施する

行動観察中に作成したフィードバックシートを協議に参加される人数分をプリントアウトし、参加者ごとにファイリングした資料一式を準備する。基本的には学級ごとにフィードバックを行っており、行動観察から得られた情報をもとに、指導・支援に関することなど学級担任の悩みや課題に応じたフィードバックを実施した。またフィードバックに対する追加の質問や相談が寄せられることがあるので、質疑応答を行い、その日のコンサルテーションを終了するようにした。

なおフィードバックに当たっては、「コンサルテーションを学級担任等のエンパワメントの機会にしたい」という思いがあり、実際に対象児への主体的な姿に繋がった支援者の関わりや具体的な支援などを取り上げながら前向きな時間になることを意識し、フィードバックシートもそのような観点から作成するようにしている。

５．研究の成果

アンケートの質問項目に沿って記述する。

（１）回答者数（表７）（Q１：今回の対象となる時期を選択してください）

延べ65名の学級担任等から回答を得ることができた。学期ごとの詳細も含めた結果を表7にまとめる。なお実施機関によって参加者に幅があり、事前に対象者数を調整することが難しいため回収率は算出していない。

表7　アンケート調査の回答者数

1学期	2学期	3学期	合計
28名	21名	16名	**延べ65名**

※対象となる件数の概要：年間34機関、相談件数137名（対象児）

（2）フィードバックシートの有効性（図3）（Q2：フィードバックシートは、協議・フィードバックを進める上有効だと思いますか？思う－やや思う－どちらとも言えない－やや思わない－思わないから選択）

「どちらとも言えない・あまり思わない・思わない」と回答は0名で、「思う」が64名、「やや思う」が1名となった。

この結果からもフィードバックシートはコンサルテーションを進める上で有効であるとの評価が65名全員で、100%であった。口頭のみではなく、やはり具体的な資料が手元にあることで、コンサルタントが説明していることを確認しながら参加できるなど、その有効性が示された。

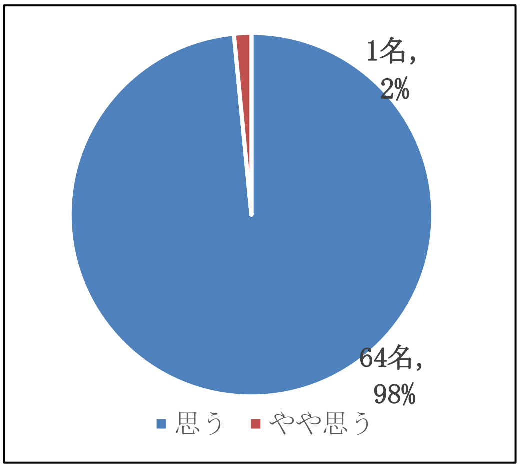

図3　Q2：有効性に関する結果
（どちらとも言えない以降は回答者0のため省略）

（3）フィードバックシートが有効であると感じる観点（図4）（Q3：フィードバックシートは、どの点で有効だと感じますか？）

観点の詳細は表5の通りである。Q3の結果からフィードバックシートの有効性について「視覚的手立て」「振り返り」「情報共有」の順で高い回答結果となった。フィードバックシートの導入は『コンサルタントの話を聞きながら、メモを取る』など、学級担任等の負担感軽減を図りたいと考えたことがきっかけであった。しかしながら図4の通り、負担感の軽減よりも視覚的手立てや振り返りなど参加者個人の利便性などの向上だけでなく、複数の教員間で情報共有を図る連携のための手立てとして特に有効であることが示された。

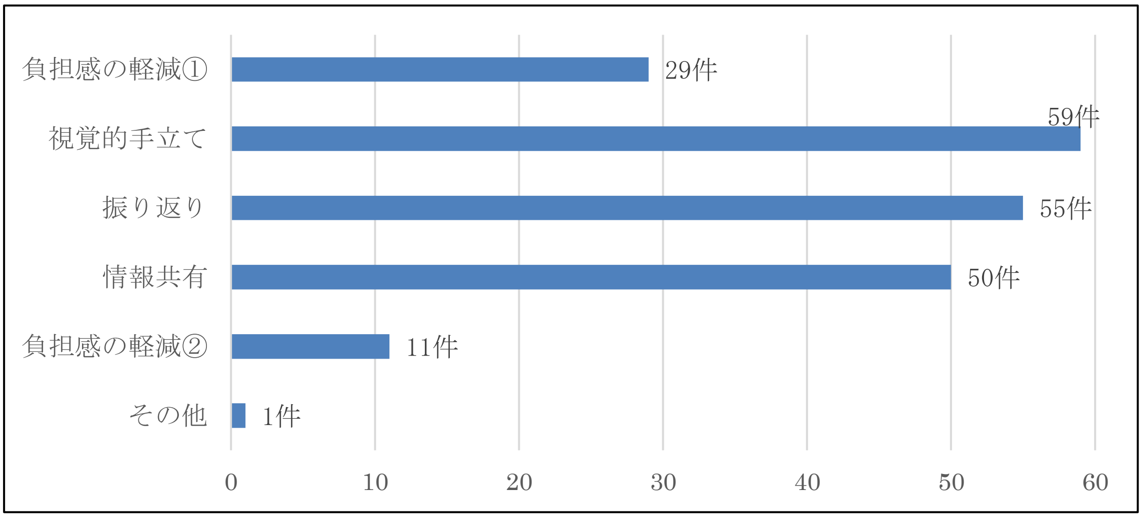

図4　Q3：有効性の観点に関する結果

（4）有効性に関する自由記述（表8）（Q4：Q3で「その他」を選択した方は、その思いや考えを自由に記入してください。

Q4には3件の回答があり、その内容を表8に示す。

表８　有効性に関する自由記述

No.	内容
1	適切なご助言をいただき、悩みが明日の保育を楽しみにする気持ちに変化しました。悩んだときに再度読み返すことができる。
2	対象児の実態や課題、教師の援助の方向性など、項目立てして表していただくことで、情報が整理されたり、これから検討するべきことが明確になったりする。
3	幼稚園では次年度担任が持ち上がらない、転勤もあり、引き継ぎきれないこと、子どもの姿が見えないまま新年度がスタートしてしまうことも往々にしてあるので、具体的なアプローチが記載されているのはとてもありがたい。　可能であれば非正規職員（午後からの預かり保育職員、特支付職員）にもできる範囲でレジメを持ち入りながら指導をしていきたい。

（５）今後の活用について（図５）（Q5：今後もコンサルテーションでは、フィードバックシートのような物があると良いと思いますか？思う－どちらでもない－思わないから選択）

Q2 の結果同様に、回答者のほぼ全員が今後もフィードバックシートのような手立ての活用を希望されていることが示された。

図４の結果と関連すると、視覚的な手立てとして情報が手元にあることで、フィードバックの内容が捉えやすくなり、事後の振り返りにまで活用できることに大きな利点が考えられる。またチームでの支援体制が前提となる環境においては、フィードバックシートを仲介として支援者間の考え方や学級全体の方向性を整えることに繋がるのではないだろうか。

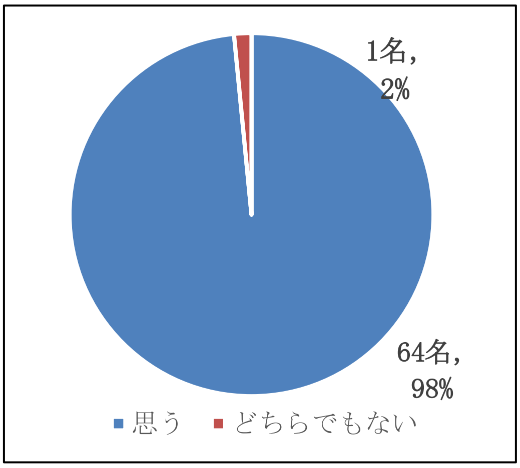

図５　Q5：今後の活用に関する結果
（「思わない」は回答者０のため省略）

（６）全体を通した自由記述（表９）（Q6：今回のフィードバックシートやコンサルテーションなど、全体を通してのご意見やご感想がありましたら記入してください）

アンケート調査に全体の回答 65 件のうち Q6 には 38 件の自由記述をいただいた。そのうち 10 件の自由記述を表 9 に示す。今回のアンケート調査はほぼ全てがフィードバックシートの取り組みに対して肯定的な回答であったので、自由記述も全て肯定的な内容を寄せていただいた。記述内容に込められた支援者の思いや考えに目を配ることで、さらなるコンサルテーションの充実に繋げることができるのではないかと考えられた。

表９　全体を通した自由記述（回答 38 件のうち 10 件を抜粋）

No.	内容
1	考えていく道筋が、このシートにあるため、考えや思いをまとめやすいと思う。自分で使って園内研修をしてみたいと思う。

2	毎回研修のたびにフィードバックシートを用いてご指導いただいているが、いつもわかりやすく知りたい情報をまとめてくださっていて、大変ありがたいです。
3	日々の保育を進めていく上で、本児の教育目標や支援目標を立てるのに、とても参考になりました。
4	課題が明確になり、手立てが具体化されて、大きな学びとなりました。情報が共有でき、今必要な手だてを確認できました。
5	指導に関してシートがあることで、より理解が深まると感じている。また、写真など視覚的にも分かりやすい。ポイントも明確になるので、引き続きお願いしたい。
6	フィードバックシートがあることで、先生がどのような場面を見てご指導くださったかが分かりやすく、またいつでも見返すことができ大変ありがたいです。
7	フィードバックシートは保育がすぐに頭を整理して協議に参加できるだけでなく、先生からのお話も視覚的に見ることができ、とてもわかりやすいです。また時間が経ってからの見返しや、教員間での情報共有にも非常にわかりやすく使わせていただいております。
8	フィードバックシートがないと、管理職や補完ファイル用の資料をつくらなくてはならないので、担任の負担軽減でライフワークバランスの観点からも非常に助かっております。
9	全員で共有し共通理解することで、対象幼児へのアプローチへの連携が取れありがたいです。また、勤務でない介助員も、この研修会には参加したいと申し出があり、全職員の資質を高めたいと思う気持ちへと持っていっていただき感謝申し上げます。
10	幼児の気になる側面に目がいきがちだが、フィードバックシートに観察を通して先生の考えを示してくださることで、視点が広がると思っている。

６．今後の課題・展望

研究を通してコンサルテーションにおけるフィードバックシートの有効性を明らかにすることができた（図３）。有効性の観点については「視覚的手立て」や「振り返り」としての分かりやすさなど個人の利用に関すること、「教員間の情報共有」としてチームとして連携を図るための手立ての可能性を明らかにすることができた（図４）。

また、今後の研究の可能性として表 9 の結果を分析的に整理することで今後の研究やコンサルテーションに関する示唆を得ることができると思われた（表 10）。

表 10　自由記述の分析を通して得られた示唆

No.	日々の実践やコンサルテーションに関する課題等（→示唆や具体的手立て）
1	個別の指導目標と具体的手立ての整理が難しい →ニーズや行動観察をもとに、指導目標と手立ての仮案を検討することが大切になる。
2	コンサルテーションにおいて、情報整理・思考の構造化が難しい →フィードバックシートの活用を通して、情報整理や構造的理解に繋がる。

3	行動観察の根拠・意図が見えにくい →フィードバックシートの活用を通して、行動観察の根拠や意図を明示できる。
4	支援者間での共有・連携・引継ぎの難しさ →フィードバックシートの活用を通して、教員間での視覚的な情報共有に繋がる。
5	口頭説明のみの場合の可視化が十分ではないことから、情報の一過性が高まりやすい →フィードバックシートの活用を通して、情報を視覚化し記録として活用できる。

７．おわりに

（１）フィードバックシートの有効性

研究を通してコンサルテーションにおける具体的手立てとして検討したフィードバックシートの有効性を明らかにすることができた。「先生の負担感の軽減を図りたい」という思いからスタートしたものの、アンケート結果からは負担感の軽減よりも、フィードバックの質の向上に有効であることが示される結果となったことは、大きな気づきを得ることができたと感じている。

（２）コンサルテーションの土台となる関係の形成

本アンケート調査は自身の取り組み(コンサルテーション)について参加者から評価を受ける、いわゆる他者評価の機会でもあり、どのように評価されるのか不安な面もあった。寄せていただいた声はどれも肯定的な内容で、先生方はコンサルテーションの実践を前向きに捉えていただいていることが明らかとなった。このような結果に繋がったのも、フィードバックの内容が少しでも現場の先生にとって役に立つものであったことに加え、継続的なコンサルテーションを通して両者の関係の形成が深まっていたことも大きいのではないだろうかと感じている。

（３）今後の研究に当たって

本研究はフィードバックシートの有効性について、有効であるのか/有効ではないのか？有効な場合の具体的な観点は何か？といったことに取り組むことができた。今後の研究の一つとして、フィードバックシートの事後活用の程度や頻度をアンケート調査から明らかにすることも考えられる。研究の振返りを行い、コンサルテーションの充実や実践の深化に取り組んでみたい。

８．参考文献

・文部科学省（2003）今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）．
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361204.ht
（2026 年 3 月 7 日参照）

・文部科学省（2023）通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/181/toushin/mext_00004.html（2026 年 3 月 7 日参照）

・文部科学省（2005）特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）．
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05120801.htm（2026 年 3 月 7 日）